

レフェリーレポート

平成 26 年度 九州ハンドボール協会 審判研修会

期日：平成 26 年 6 月 21 日（土）・22 日（日）

開催地：熊本市立千原台高校（視聴覚室・体育館）

【研修会概要】

九州協会島村審判長主催の下、日本ハンドボール協会競技規則研究委員長、日本のトップレフェリーの一人かつ、国際審判員としても活躍されている福島審判員を講師として迎え開催されました。研修会は約 90 分の福島審判員による講義と、その内容を意識しての実技指導の二本柱で 2 日間行われました。

「基本に忠実であれ」

両日の講義で強調されたのは、「基本に忠実であれ」ということです。それはつまり、「競技規則に忠実であれ」ということでした。今回は、上級審査を控えているレフェリーも参加をしていたので、ここが大切！といった項目を強調して講演が進行しました。

「環境管理の重要性」

- ・ 試合の始まる前の確認：チームが会場に来ているか、ボールがあるか、カーテンを開閉する必要があるか。
- ・ 競技が始まると、「許される行為」と「許されない行為」の見極め、オフィシャルとの連携、プレイヤーとベンチの管理をする。
- ・ 時間の管理：退場行為があれば、オフィシャルと連携して、きちんと時間を止めること。ランニングタイムはオフィシャルが管理で、タイムアウトは審判の役割だとそれぞれの役割分担を正しく理解しておくことも重要な審査基準になる。

「7mスローの判定」

- ・ 罰則付きの 7m スローなのか、7m スローなのか、あるいは防御側のナイスディフェンスなのか、それぞれの判定はこれからチームが強くなっていくためにも大切な指導項目になる。
- ・ 特に、サイドシュートの守りについては、オフenseに正対して正面から守った場合は、ディフェンスを評価しオフenseファールとすること。オフenseよりも遅れて、横からディフェンスに入った場合は、罰則付きの 7m スローとする。
- ・ サイドシュートは手を出したらすぐに 7m スローではなく、ディフェンスがどのように守ったかを観察して判定を下すことがディフェンス力の向上にもつながる。
- ・ 反則があつて、ダウンでシュートを打ったときには、得点にせずに 7m スローにすること。
- ・ 罰則の基準として、ファウルが選手に対する影響度や、選手の損傷度で判定していくことも大切。よくあるのが、選手が倒れた時に、倒れた選手を背中にしないこと

は鉄則。倒れているときに、ひどいときは、キーパーが倒れている選手を蹴ったり、小競り合いになったりする可能性がある。近くにいることや、目線を切らないだけでかなりの抑止効果にもなる。

「コートレフェリーとゴールレフェリーの位置取り」

- ・ 「正しい位置取りが正しい判定につながる。」を念頭に、見える位置に動くことが重要。
- ・ レフェリーがペアで目を合わせて、お互いがどこにいるかを確認すること。特に、ターンオーバーを判定したときに、選手、ペアを見ること。ボールを置かなかったり、スローを不正に邪魔したりしないように、反則を判定した審判が責任をもって見るのが重要。
- ・ 速攻の時などはレフェリーが選手と並走をすると、ボールの扱いや、選手の接触行為が見えなくなるので、後ろか、一線前にいるかを見ることが大切で、速く走ることも観測を優先し、できるだけ止まるほうがより正確に判定ができる。

「交代のタイミング」

- ・ 審判の位置交代のタイミングに関して、イエローカードごとにも変わる必要はない。イエローカードを判定したら、判定した審判がジェスチャーし、選手と会場に何が起こったかを伝え、それからオフィシャルと確認をきちんととることを忘れてはいけない。
- ・ 警告が出たときに位置の交代を優先するよりも、ボールの観測を最優先とすることが大切。ただ、同じ審判が、オフフェンスファウルや、退場を判定し続けているときは交代するほうがより公正な判定がおこなわれて良い。
- ・ 交代の理想的なタイミングとしては、ボールがゴールラインから大きく超えたときや、7m スロー、タイムアウトの時などに変わるのがよいが、どんな時にもボールを観察していることが大前提となると強調されました。

講義の後には、九州学院高校、千原台高校の選手、そして熊本の社会人チームの20分ゲームを、講演でのポイントを意識しながら参加者でレフェリーをし、福島審判員と島村審判長からフィードバックをもらいました。最後は、福島審判員の審判を全体で見て研修会が閉会されました。

【感想】

今回の研修会では、福島審判員の気さくな人柄と、引きつけられる講演、アドバイスが印象的でした。できないことや理解が浅い自分にとっては一つ一つがわかりやすく、たくさん質問をすることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。指導者としてきちんとルールを理解しておく事が、チームとして強くなる条件になると福島審判員がいられていたように、今後も自己研鑽していこうと向上心の湧く研修会でした。

山口 茂朗